

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

小学生部門

私は、お母さんとけんかをしてしまいました。私がクロ―ゼットにしているとなんとなくお母さんのけししよう箱を見たくなり、はっとしました。お母さんのけししよう箱に大事なおいてあるわたしの手紙がはいつていました。わたしは、なみだがでそうになりました。わたしは、一生けんめいか

じをしているお母さんを見て「あやまろう。」と心から思いました。

わたしの手紙

マンガ/鞠音

注目!

夢育ポイント

子どもからもらったもの、どうしてますか？捨てるのは、もったいない。この日記のように、過去の手紙によって、親子関係が修復されるということがあるんです。子どもからのプレゼントは、子育てにおいて最強の武器になります。なぜなら「大切に持っているよ」は「愛してるのサイン」だからです。

特に手紙は素直な思いが表現されることが多く、時間が経っても色あせず、瞬時にそのときの気持ちを思い出させてくれます。引き出しにずっとしまっておいた手紙を、人生の節目や思いのすれ違いなど、ここぞというタイミングで見せたいですね。他にも、わざと見つけやすい所に置いたり、普段から見える所に置いたりと見せ方はいろいろです。ぜひ、チャレンジしてみてください。（中山芳一）